

急に怒りっぽくなった…

⇒不安な思いに共感して、人柄に応じた
対応をしていきましょう

とよさと病院 認知症疾患医療センター

【 認知症の人の状態 】

認知症になると、初期の段階から、急に怒りっぽくなったり、まったく別の人格が現れたような行動がみられることがあります。

その現われ方は個人差が大きく、たとえば、大雑把な性格だった人が余計に身のまわりに気を使わなくなったり、以前は温和な人だったのに、急に攻撃的になってしまうことがあります。これは、認知症の人の**記憶力が弱ってきた部分と正常な部分とが混在している状態**にあり、将来どうなるのかという**不安や恐怖を強く感じている**ためです。

しかし、その**思いを言葉で表現するのが難しくなってくる**ために、自分自身に腹を立てたり、逆に憂鬱な気分襲われて、不安感ややり場のない気持ち、**暴言や暴力としてでることがあります**。また、**自分の居場所がない**と感じたり、日常生活でできないことが増えていく**焦燥感や被害意識の高まり**から、混乱やストレスが募って興奮して、怒りの感情を爆発させてしまうのでしょ。

周りの人は、認知症の人の性格を変えようとしたり、元の状態に戻そうとしたりするのではなく、**不安な思いに共感して、人柄の変化に応じた対応**をしていきましょう。



【 対応方法 】

- ①認知症の人は、思いを伝えられなくて苛立つのだと受け止め、**話を遮ったり急かすことなく、ゆっくり聞く姿勢**を見せましょう。
- ②言葉に詰まっているようなら、**相手の言葉を繰り返したり、話の展開を予想して「○○ですね？」**など**言葉を補い、続きを促しましょう**。
- ③認知症の人が怒りで興奮しているとき、そのきっかけとなった言動について、注意したり叱るのではなく「それは腹が立つよね」「大変でしたね」などと、**共感した言葉を伝えましょう**。

参考文献：杉山孝博, 認知症の9大法則50症状と対応策, 法研, 2013, P64-65

2022.6作成

④認知症の人も誰かの役に立ちたいと思っています。できる範囲の家事を手伝ってもらい、結果を問わず“褒める・感謝する”言葉を伝えると、認知症の人の表情や言動が落ち着いてきます。

⑤昔の記憶は残っている場合も多いので、好きだったことや楽しい思い出話、懐かしい写真などを用意してそれを話題に語り合うことは、認知症の人の精神面での安定につながるでしょう。

参考文献：杉山孝博, 認知症の9大法則50症状と対応策, 法研, 2013, P64-65

ケアのコツ…介護者の知識や経験が少ない



認知症介護者（家族）は、認知症ケアに関する知識も経験もない中で、介護が始まるのがほとんどです。「介護の難しさや大変さを解消するためには何が必要か？」

「どうすれば本人の言動の理由が探れるのか？」ということに、見当をつけにくく、いったい何に目を向ければいいのかさえ分からないかもしれません。

書店に行けば、「困ったときはどうすればいいか？」というケア方法が書かれた書籍に出会えますが、その方法が誰にでも最適な方法とは限りませんので、その書籍に書かれた方法を試してみて、うまくいなくても、絶望感やあきらめを抱く必要はありません。

大切なのは、「その方法が適している理由」なのです。うまくいく介助方法だけでなく、観察ポイントやコミュニケーション力も学ぶことができれば、応用力のある介護ができるようになるでしょう。経験豊富で、上手に介護ができる人から学ぶのも一つです。

参考文献：ペホス, “理由を探る” 認知症ケア, 株式会社メディカル・パブリケーションズ, 2014, P66-67



とよさと病院

認知症疾患医療センター

TEL 029-847-9581

2022.6作成